
宮 嶋 怡 正

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、質問許します。登壇願います。

4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋怡正です。

私は、刈谷市との有効、もしくは姉妹提携の締結について質問をいたします。

1998年に刈谷市民休暇村サンモリーユ下條が建設されて以来、10年来にわたっての交流が続いておる中、刈谷市で行われる各種イベントにも毎年参加をしてきており、今年の10月には刈谷ハイウェイオアシスのイベントへ参加し、11月には刈谷産業祭りや刈谷地区農業祭へも参加をし、下條村産の農産物に対する期待感も年々高まってきており、11月の15・16日に行われました農産物主体の農業祭りでは天候が悪く、人手がまばらだったにもかかわらず、持ち込んだ農産物すべて完売をし、過去最高の売り上げを記録したということであります。

今後、さらにしっかりとした基盤の上で、刈谷市との交流を深めていくことが下條村にとっても、また刈谷市民にとっても有益なことに結びつくと思いますので、刈谷市との有効もしくは姉妹提携を結ぶ必要があると思いますが、村長の見解をお聞きしたいと思えます。

以上であります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 今お話のように、刈谷市の提携でございますけれども、平成10年にできました。

言ってしまうとこれだけでございますけれども、あれは平成2年から始まって、立科ともすごいデットヒートをやりました。

市長さんもほとんど立科に傾いておったわけでございますけれども、当時の助役さんと1人有力な議員さんがおりまして、何とかこっちに振り向けていただいて、本当に長すぎた春という感がいたすわけでございますけれども、今刈谷市さんでは非常に感謝しております。いいとこでそれで稼働率の非常に良いということでございます。

そこでその話した時に当然「提携しましょう」というような話もお互いに出ました。そしてお互いに「やめましょう」ということになりました。

やはり長い付き合いというのは形がつけて、それで手を握ったり調印したでというもん

でなくて、必要な時に必要なだけお互いに力を貸し合うということがいいじゃないかという
ことで、今日までできております。

今まさに刈谷市のドル箱であるハイウェイオアシスにも下條のブースも作っておって
いただいてやっております。

それからそれぞれのイベント、私も7～8年前、峰竜太さんと一緒に行って応援したこ
ともございますし、刈谷市の福祉施設がオープンの時には下條の温泉のお湯をタンクロー
リー2杯積んで、行ってオープンにした。まだあの時分は非常に硫黄のにおいのする時分
でございまして、そんな思い出もあるわけでございます。

何も反抗してこうだということではなくて、自然のうちに良い関係が醸成されていくとい
うことは、これまたほのかで良いもんでございますので、これからもお互いに肩肘を張ら
ないように、いろいろ連絡を取り合いながらやっていくことの方がかえって良いのかなと
思っておりますので、今のところそういう方向であるということで答弁とさせていただきます。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問がありましたら。

4番（宮嶋 怡正） ありません。

議長（村松 積） 以上で日程第3、一般質問を終わります。